

平成30年度 後期学校評価アンケート結果（12月実施）

今年度後期の学校評価アンケート結果のご報告をいたします。生徒・保護者・教職員それぞれのアンケート結果から見えてくる学校の課題について、学校運営協議会、校内委員会、PTA運営委員会等で協議をしました。前期同様、肯定的な回答を集計し、基準値の75ポイントを一つの目安として表示いたしました。以下に、協議会や委員会で協議した内容をまとめましたので掲載させていただきます。

＜確かな学力の向上について＞

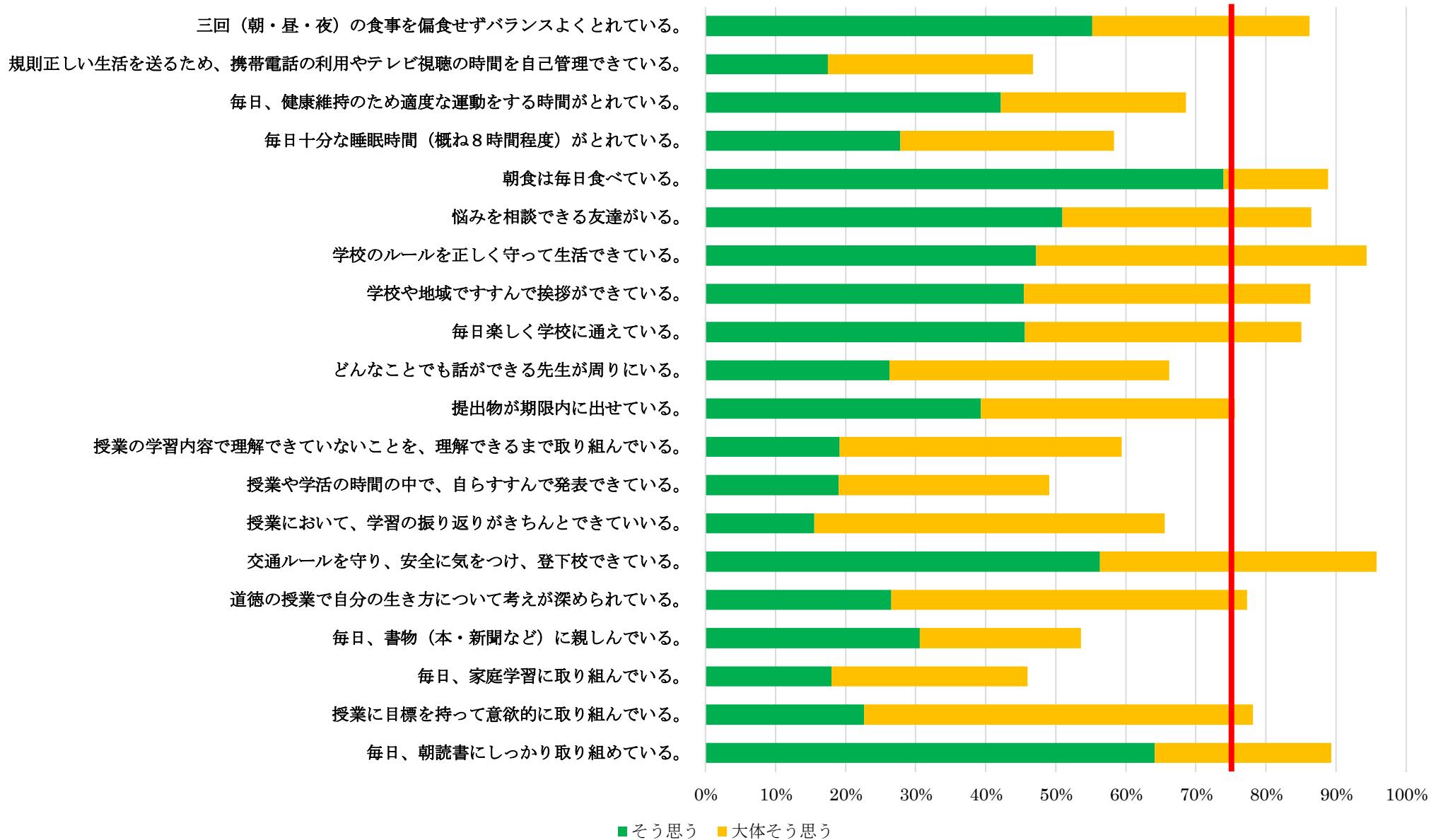
前期および後期の評価から、家庭学習が定着できていないことが最大の課題であることがあきらかになった。学校における授業については、課題はあるものの、規範意識の高まりにともない、関心を持って意欲的に取り組んでいこうとしている。しかしながら、語彙力の少なさや表現力の乏しさにより、学力の向上につながっていないことが現実としてある。この課題を解決するためには、校内の授業改善や読書活動の取り組みは勿論のこと、学校を取り巻く様々な人的、物的資源を利用していくべきである。そして、まわりの大人が手をかけ過ぎずに、時間がかかっても子どもの自主性を尊重して見守っていくことで、子どもが主体的に学ぶ力が育まれていくことになる。子どもたちが、多様な大人と接する機会（地域の活動やボランティア活動など）を仕掛け、生きた言語活動を経験させていくことが重要な取り組みである。

＜豊かなこころと健やかな体について＞

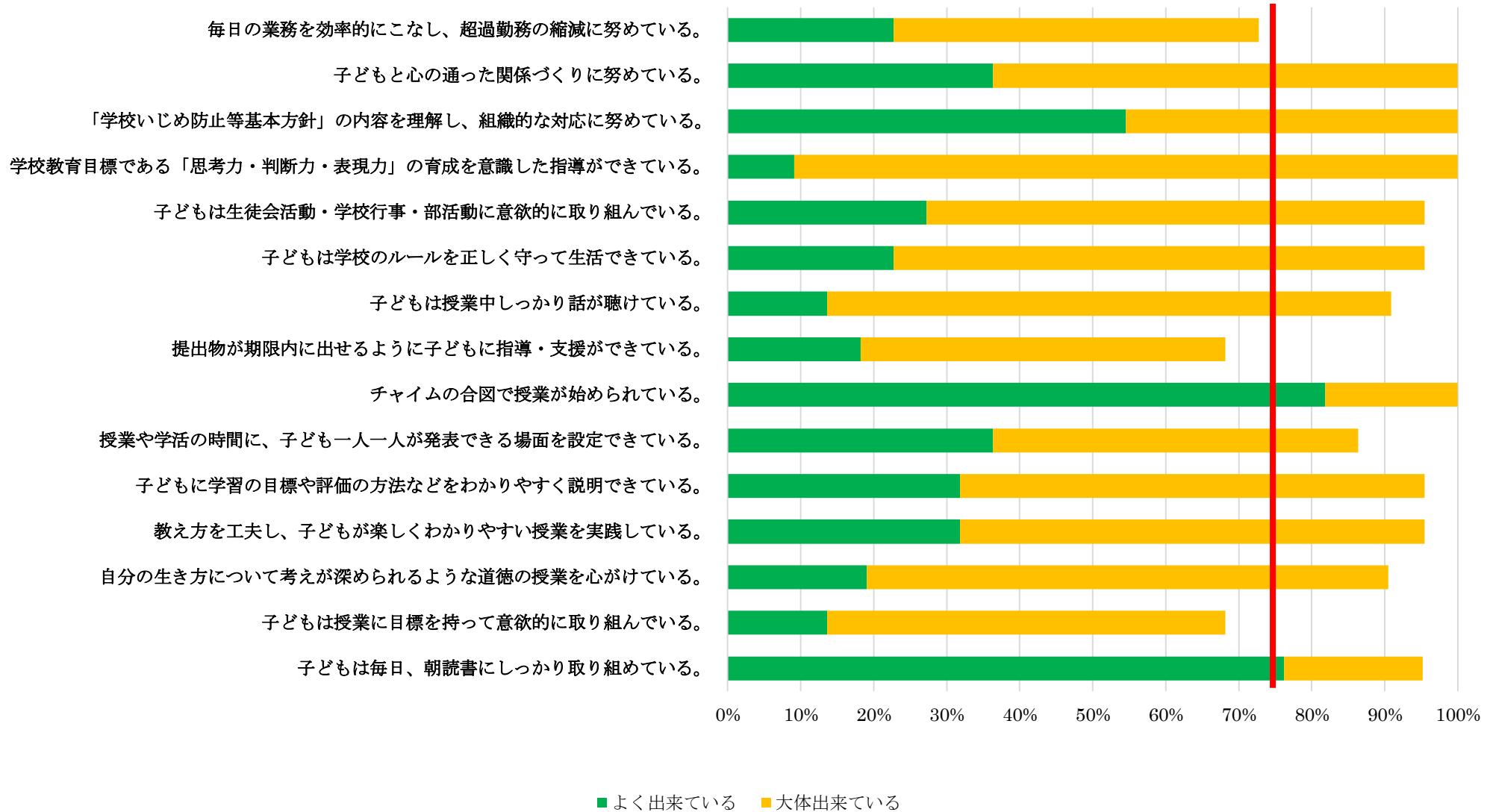
生徒会活動、学校行事、部活動を通じた教育活動については、子どもたちが成就感や楽しさを体感しており、そのことにより自己肯定感を育めている。また、その事が子どもが学校に楽しく通えていることにつながっている。その一方で、携帯やスマホの利用時間やテレビの視聴時間などの自己管理ができていないという結果があらわれている。また、それが十分な睡眠時間がとれていないことにもつながり、基本的生活習慣の乱れを生み出している。この現状の解決には、家庭の協力が必要不可欠である。家庭での教育力向上への取り組みについては、即効薬はないので、長期および短期の目標を掲げて粘り強く取り組んでいき、保護者を巻き込む教育活動を工夫し、啓発していくことが必要である。

いじめの防止に向けて、子どもと教職員との共感的理解を深める取り組みや、子どもに教育活動の中で自己決定の場を与える取り組みについては、まだまだ大きな課題が残っている。社会におけるルールや法の重要性、許されない行為についての指導については、生徒会を中心とした全校集会の取り組みや外部の講師を招いた啓発活動を通じたこれまでの取り組みを継続しながら、来年度は道徳教育や総合的な学習を通じて、子ども自らが社会や学校の規範についてさらに考える場を与えることにより、規範意識を深化させていくべきである。

学校評価アンケート結果：冬季休業前（生徒）



学校評価アンケート結果：冬季休業前（教職員）



学校評価アンケート結果：冬季休業前（保護者）

